

## 若者の介護意識についての調査アンケート

公立鳥取環境大学 経営学部

講師 佐藤彩子

### 1. 問題意識

高齢者急増に伴い、我が国では介護サービス需要は高まりをみせている。この背景には女性の社会進出や、晩婚化・晩産化に伴う1組の夫婦がもつ子供数の減少等により、家族介護が困難になっているという事情がある。他方で、年をとっても住み慣れた自宅で暮らしたいという高齢者は多く、家族介護へのニーズが完全になくなったわけではないと考える。加えて、近年は遠方の家族を介護する「遠距離介護」や、18歳未満で家族の介護や身の回りの世話等を担う「ヤングケアラー」が増加する等、新しい介護問題も生じつつある。

このような状況を踏まえ、次世代を担う若者を対象として身近な介護経験や介護保険制度・各種サービスの認知状況、介護意識・検討状況等を明らかにすることを目的に、介護意識アンケート調査を実施した。本稿ではこの調査結果(速報)を報告する。なお、後述するように、30代以下の若者だけでなく40代以上も含めた幅広い年齢層からの回答が得られているため、以下の報告では若者に限定せず分析を行った。アンケート調査の概要は第1表のとおりである。

第1表 アンケート調査の概要

項目	具体的な対象・内容
調査対象者	全国の若者 ※30代以下を若者とする。
調査時期	2021年11月15日～26日
調査項目	性別、年齢、出身都道府県、現居住都道府県、婚姻関係・居住形態、身近な介護経験の有無、介護保険制度や各種サービスの認知状況等
調査方法	グーグルフォームによるアンケート
有効回答数	313人
調査実施者	N.K.C ナーシングコアコーポレーション合同会社 代表 神戸貴子 遠距離介護支援協会 事務局長 藤吉航介
調査協力者	公立鳥取環境大学経営学部 講師 佐藤彩子

出所：アンケート調査より作成。

### 2. アンケート調査の結果

#### ①基本属性

第2表では性別、年齢階級別の回答者数を示した。312人中、男性が129人、女性が183人であり、女性割合は58.7%と女性の方が多い。年齢別にみると、「30代以下」は男性で95人(73.6%)、女性で81人(44.3%)、「40代以上」は男性で34人(26.4%)、女性で102人(55.7%)と、男性では「30代以下」の方が女性では「40代以上」の方が多い。また「30代以下」の若者に限定すると、20代以下が男性では84人(88.4%)であるのに対し、女性では57人(70.4%)と女性の方が割合は低い。また男女計に占める女性割合は「30代以下」で46.0%、「40代以上」で75.0%と、後者の方が高い。

第2表 性別、年齢階級別の回答者数

	男性		女性		計		男女計に占める女性割合(%)
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	
30代以下	95	73.6	81	44.3	176	56.4	46.0
うち16～19歳	13	10.1	12	6.6	25	8.0	48.0
うち20～24歳	69	53.5	38	20.8	107	34.3	35.5
うち25～29歳	2	1.6	7	3.8	9	2.9	77.8
うち30～34歳	6	4.7	10	5.5	16	5.1	62.5
うち35～39歳	5	3.9	14	7.7	19	6.1	73.7
40代以上	34	26.4	102	55.7	136	43.6	75.0
計	129	100.0	183	100.0	312	100.0	58.7

注：性別不明の20歳1人を除く。

出所：アンケート調査より作成。

次に第3表では性別、職業(身分)別の回答者数を示した。男性は「学生」が77人(59.7%)、「社会人」が48人(37.2%)と前者が多いのに対し、女性では「学生」が44人(24.0%)、「社会人」が110人(60.1%)と後者が多い。これは、第1表で女性の方が男性よりも回答者の年齢層が高いことと関連していると考えられる。

第3表 性別、職業(身分)別回答者数

		男性		女性		計	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
学生	高校生	0	0.0	2	1.1	2	0.6
	短大生	1	0.8	0	0.0	1	0.3
	大学生	76	58.9	41	22.4	117	37.5
	大学院生	0	0.0	1	0.5	1	0.3
	計	77	59.7	44	24.0	121	38.8
社会人	会社員	25	19.4	64	35.0	89	28.5
	経営者・役員	12	9.3	15	8.2	27	8.7
	自営業	5	3.9	23	12.6	28	9.0
	教員	1	0.8	0	0.0	1	0.3
	公務員	5	3.9	8	4.4	13	4.2
	計	48	37.2	110	60.1	158	50.6
無職		0	0.0	7	3.8	7	2.2
その他・不明		4	3.1	22	12.0	26	8.3
合計		129	100.0	183	100.0	312	100.0

注：性別不明の20歳1人を除く。

出所：アンケート調査より作成。

続いて第4表では性別、現居住都道府県別の回答者数を示した。男性では「大都市圏」が61人(47.3%)、「地方圏」が68人(52.7%)、女性では「大都市圏」が75人(41.0%)、「地方圏」が108人(59.0%)と、男女ともに「地方圏」の方が多いが、その割合は女性の方でやや高い。

第4表 性別、現居住都道府県別の回答者数

	男性		女性		計	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
大都市圏	61	47.3	75	41.0	136	43.6
うち東京圏	56	43.4	44	24.0	100	32.1
うち大阪圏	2	1.6	22	12.0	24	7.7
うち名古屋圏	3	2.3	9	4.9	12	3.8
地方圏	68	52.7	108	59.0	176	56.4
計	129	100.0	183	100.0	312	100.0

注：1. 性別不明の20歳1人を除く。

2. 大都市圏とは東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)、大阪圏(京都府、大阪府、兵庫県、奈良県)、名古屋圏(岐阜県、愛知県、三重県)をさし、それ以外を地方圏とした。

出所：アンケート調査より作成。

以下では、性別、年齢階級別、現居住都道府県別に身近な介護経験や介護保険制度・各種サービスの認知状況、介護意識・検討状況等を分析する。

## ②身近な介護経験の有無

第5表では、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた身近な介護経験の有無を纏めた。男女別にみると、「あり」は男性で24人(18.6%)と大半の人に介護経験がないのに対し、女性では78人(42.6%)と10人に4人に介護経験がある。また年齢階級別にみると、「あり」は30代以下で29人(16.4%)と大半の人に介護経験がないのに対し、40代以上で74人(54.4%)と半数超の人に介護経験がある。加えて、現居住都道府県別にみると、「あり」は大都市圏で32人(23.5%)、地方圏で71人(40.1%)と、地方圏の方が介護経験のある人の割合が高い。

第5表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた身近な介護経験の有無

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
介護経験あり	24	18.6	78	42.6	29	16.4	74	54.4	32	23.5	71	40.1	103	32.9
介護経験なし	105	81.4	105	57.4	148	83.6	62	45.6	104	76.5	106	59.9	210	67.1
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

次に介護経験のある人に限定して、第6表では現在の介護状況を性別、年齢階級別、現居住都道府県別に纏めた。現在、介護をしている人は男性で6人(25.0%)、女性で30人(38.5%)と女性で割合が高く、30代以下で7人(24.1%)、40代以上で29人(39.2%)と40代以上で割合が高い。他方で、現居住都道府県では大都市圏が11人(34.4%)、地方圏が25人(35.2%)と、現在、介護をしている人の割合に両方で差はない。

第6表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた現在の介護状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
現在、介護をしている	6	25.0	30	38.5	7	24.1	29	39.2	11	34.4	25	35.2	36	35.0
現在、介護をしていない	18	75.0	48	61.5	22	75.9	45	60.8	21	65.6	46	64.8	67	65.0
計	24	100.0	78	100.0	29	100.0	74	100.0	32	100.0	71	100.0	103	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

第7表では、現在、介護をしている人に限定して介護をする上で困っていることを示した。「精神的な疲労」が23人(63.9%)、「肉体的・身体的な疲労」が18人(50.0%)、「就業との両立困難」が15人(41.7%)と多くなっている。

第7表 現在、介護をしている人が介護をする上で困っていること

(人数：人、割合：%)

	人数	割合
学業・進学との両立困難	1	2.8
就業との両立困難	15	41.7
プライベート(交友・恋愛等)との両立困難	10	27.8
趣味や娯楽等の自分の時間との両立困難	12	33.3
経済的な困窮	12	33.3
肉体的・身体的な疲労	18	50.0
精神的な疲労	23	63.9
被介護者(介護される人)との関係悪化	6	16.7
被介護者以外(あなたと介護を分担している人、友人知人等)との関係悪化	7	19.4
特にない・わからない	3	8.3
その他	3	8.3

注：「あてはまるものすべて」とする問である。アンケート母数は36である。

出所：アンケート調査より作成。

第8表では、現在、介護をしている人に限定して、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた相談相手の有無を示した。「いる」と回答した者は男性で4人(66.7%)、女性で25人(83.3%)、30代以下で5人(71.4%)、40代以上で24人(82.8%)、大都市圏で7人(63.6%)、地方圏で22人(88.0%)であり、男性より女性で、30代以下より40代以上で、大都市圏より地方圏で割合は高い傾向にあるが、全体で約8割に相談相手がいることから、現在、介護をしている人の多くに相談相手がいると考えられる。

第8表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた現在、介護をしている人の相談相手の有無  
(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
いる	4	66.7	25	83.3	5	71.4	24	82.8	7	63.6	22	88.0	29	80.6
いない	1	16.7	3	10.0	0	0.0	4	13.8	2	18.2	2	8.0	4	11.1
わからない・話したくない	1	16.7	2	6.7	2	28.6	1	3.4	2	18.2	1	4.0	3	8.3
計	6	100.0	30	100.0	7	100.0	29	100.0	11	100.0	25	100.0	36	100.0

出所：アンケート調査より作成。

### ③介護保険制度や各種サービス、介護保険外サービスの認知状況

第9表では、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた介護保険制度認知状況を示した。男性では「知っている」が32人(24.8%)、「少し知っている・聞いたことがある」が60人(46.5%)であり、両者で71.3%を占める。他方、女性では「知っている」が77人(42.1%)、「少し知っている・聞いたことがある」が80人(43.7%)であり、両者で85.8%を占め、男性より女性で認知度が高い。また30代以下では「知っている」が30人(16.9%)、「少し知っている・聞いたことがある」が99人(55.9%)であり両者で72.9%を占めるのに対し、40代以上では「知っている」が79人(58.1%)、「少し知っている・聞いたことがある」が42人(30.9%)であり両者で89.0%を占め、30代以下より40代以上で認知度が高い。加えて、現居住都道府県が大都市圏では「知っている」が49人(36.0%)、「少し知っている・聞いたことがある」が61人(44.9%)であり両者で80.9%を占めるのに対し、地方圏では「知っている」が60人(33.9%)、「少し知っている・聞いたことがある」が80人(45.2%)であり両者で79.1%を占め、現居住都道府県では認知度に差はみられない。

第9表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた介護保険制度認知状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	32	24.8	77	42.1	30	16.9	79	58.1	49	36.0	60	33.9	109	34.8
少し知っている・聞いたことがある	60	46.5	80	43.7	99	55.9	42	30.9	61	44.9	80	45.2	141	45.0
知らない・わからない	37	28.7	26	14.2	48	27.1	15	11.0	26	19.1	37	20.9	63	20.1
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

以下では、介護保険制度で利用可能な各種サービスと介護保険外サービスの認知状況を個別にみていく。第10表では、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた老人ホーム認知状況を示した。「知らない・わからない」と答えた人は皆無であり、性別、年齢階級、現居住都道府県を問わず、9割前後の人が「知っている」と回答している。したがって、後述するように老人ホームの認知度は他の介護保険サービスと比べて高いと考えられる。

第10表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた老人ホーム認知状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	124	96.1	162	88.5	165	93.2	122	89.7	121	89.0	166	93.8	287	91.7
少し知っている・聞いたことがある	5	3.9	21	11.5	12	6.8	14	10.3	15	11.0	11	6.2	26	8.3
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：1. 「知らない・わからない」は皆無であったため、省略。

2. 年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

次に第11表では性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみたデイサービス認知状況を示した。「知らない・わからない」と回答した人はほとんどおらず、「知っている」と回答した人は性別、年齢階級、現居住都道府県を問わず、8割台を示す。

第 11 表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみたデイサービス認知状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	108	83.7	159	86.9	146	82.5	122	89.7	115	84.6	153	86.4	268	85.6
少し知っている・聞いたことがある	18	14.0	24	13.1	28	15.8	14	10.3	19	14.0	23	13.0	42	13.4
知らない・わからない	3	2.3	0	0.0	3	1.7	0	0.0	2	1.5	1	0.6	3	1.0
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の 20 歳 1 人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

第 12 表では性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた訪問介護認知状況を示した。デイサービス同様、「知らない・わからない」と回答した人はほとんどおらず、「知っている」と回答した人は性別、年齢階級、現居住都道府県を問わず、8 割台を示す。

第 12 表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた訪問介護認知状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	113	87.6	159	86.9	152	85.9	121	89.0	116	85.3	157	88.7	273	87.2
少し知っている・聞いたことがある	13	10.1	23	12.6	21	11.9	15	11.0	19	14.0	17	9.6	36	11.5
知らない・わからない	3	2.3	1	0.5	4	2.3	0	0.0	1	0.7	3	1.7	4	1.3
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の 20 歳 1 人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

以上のように、老人ホーム、デイサービス、訪問介護はほとんどの人が知っている状況にある。他方で、以下のショートステイや地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護保険外サービスは性別、年齢階級、現居住都道府県別にみると認知度に差がある。

第 13 表では、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみたショートステイ認知状況を示した。男性では「知っている」が 62 人(48.1%)、「少し知っている・聞いたことがある」が 20 人(15.5%)であり、両方で 63.6%を占める。他方、女性では「知っている」が 133 人(72.7%)、「少し知っている・聞いたことがある」が 35 人(19.1%)であり、両方で 91.8%を占め、男性より女性で認知度が高く、女性は大半が知っている。また 30 代以下では「知っている」が 83 人(46.9%)、「少し知っている・聞いたことがある」が 36 人(20.3%)であり両方で 67.2%を占めるのに対し、40 代以上では「知っている」が 112 人(82.4%)、「少し知っている・聞いたことがある」が 19 人(14.0%)であり両方で 96.3%を占め、30 代以下より 40 代以上で認知度が高く、40 代以上は大半が知っている。加えて、現居住都道府県が大都市圏では「知っている」が 82 人(60.3%)

「少し知っている・聞いたことがある」が28人(20.6%)であり両方で80.9%を占めるのに対し、地方圏では「知っている」が113人(63.8%)、「少し知っている・聞いたことがある」が27人(15.3%)であり両方で79.1%を占め、大都市圏と地方圏で認知度に大きな差はみられない。

第13表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみたショートステイ認知状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	62	48.1	133	72.7	83	46.9	112	82.4	82	60.3	113	63.8	195	62.3
少し知っている・ 聞いたことがある	20	15.5	35	19.1	36	20.3	19	14.0	28	20.6	27	15.3	55	17.6
知らない・わからない	47	36.4	15	8.2	58	32.8	5	3.7	26	19.1	37	20.9	63	20.1
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

第14表では、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた地域包括支援センター認知状況を示した。男性では「知っている」が40人(31.0%)、「少し知っている・聞いたことがある」が35人(27.1%)であり、両方で58.1%を占める。他方、女性では「知っている」が104人(56.8%)、「少し知っている・聞いたことがある」が42人(23.0%)であり、両方で79.8%を占め、男性より女性で認知度が高い。また30代以下では「知っている」が52人(29.4%)、「少し知っている・聞いたことがある」が50人(28.2%)であり両方で57.6%を占めるのに対し、40代以上では「知っている」が92人(67.6%)、「少し知っている・聞いたことがある」が27人(19.9%)であり両方で87.5%を占め、30代以下より40代以上で認知度が高い。加えて、現居住都道府県が大都市圏では「知っている」が57人(41.9%)、「少し知っている・聞いたことがある」が31人(22.8%)であり両方で64.7%を占めるのに対し、地方圏では「知っている」が87人(49.2%)、「少し知っている・聞いたことがある」が46人(26.0%)であり両方で75.1%を占め、大都市圏より地方圏で認知度が高い。

第14表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた地域包括支援センター認知状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	40	31.0	104	56.8	52	29.4	92	67.6	57	41.9	87	49.2	144	46.0
少し知っている・ 聞いたことがある	35	27.1	42	23.0	50	28.2	27	19.9	31	22.8	46	26.0	77	24.6
知らない・わからない	54	41.9	37	20.2	75	42.4	17	12.5	48	35.3	44	24.9	92	29.4
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

第15表では、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみたケアマネジャー認知状況を示した。男性では「知っている」が48人(37.2%)、「少し知っている・聞いたことがある」が44人(34.1%)であり、両者で71.3%を占める。他方、女性では「知っている」が131人(71.6%)、「少し知っている・聞いたことがある」が43人(23.5%)であり、両者で95.1%を占め、男性より女性で認知度が高い。また30代以下では「知っている」が69人(39.0%)、「少し知っている・聞いたことがある」が65人(36.7%)であり両者で75.7%を占めるのに対し、40代以上では「知っている」が110人(80.9%)、「少し知っている・聞いたことがある」が22人(16.2%)であり両者で97.1%を占め、30代以下より40代以上で認知度が高く、40代以上では大半が知っている。加えて、現居住都道府県が大都市圏では「知っている」が73人(53.7%)、「少し知っている・聞いたことがある」が43人(31.6%)であり両者で85.3%を占めるのに対し、地方圏では「知っている」が106人(59.9%)、「少し知っている・聞いたことがある」が44人(24.9%)であり両者で84.7%を占め、大都市圏と地方圏で認知度に大きな差はみられない。

第15表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみたケアマネジャー認知状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	48	37.2	131	71.6	69	39.0	110	80.9	73	53.7	106	59.9	179	57.2
少し知っている・ 聞いたことがある	44	34.1	43	23.5	65	36.7	22	16.2	43	31.6	44	24.9	87	27.8
知らない・わからない	37	28.7	9	4.9	43	24.3	4	2.9	20	14.7	27	15.3	47	15.0
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

第16表では、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた介護保険外サービス認知状況を示した。男性では「知っている」が22人(17.1%)、「少し知っている・聞いたことがある」が37人(28.7%)であり、両者で45.7%を占める。他方、女性では「知っている」が55人(30.1%)、「少し知っている・聞いたことがある」が65人(35.5%)であり、両者で65.6%を占め、男性より女性で認知度が高い。また30代以下では「知っている」が19人(10.7%)、「少し知っている・聞いたことがある」が54人(30.5%)であり両者で41.2%を占めるのに対し、40代以上では「知っている」が58人(42.6%)、「少し知っている・聞いたことがある」が49人(36.0%)であり両者で78.7%を占め、30代以下より40代以上で認知度が高い。加えて、現居住都道府県が大都市圏では「知っている」が29人(21.3%)、「少し知っている・聞いたことがある」が44人(32.4%)であり両者で53.7%を占めるのに対し、地方圏では「知っている」が48人(27.1%)、「少し知っている・聞いたことがある」が59人(33.3%)であり両者で60.5%を占め、大都市圏より地方圏で認知度が高い。ただ、性別、年齢階級、現居住都道府県を問わず、いずれも介護保険制度の認知状況(第9表)に比べると低い。

第16表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた介護保険外サービス認知状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っている	22	17.1	55	30.1	19	10.7	58	42.6	29	21.3	48	27.1	77	24.6
少し知っている・聞いたことがある	37	28.7	65	35.5	54	30.5	49	36.0	44	32.4	59	33.3	103	32.9
知らない・わからない	70	54.3	63	34.4	104	58.8	29	21.3	63	46.3	70	39.5	133	42.5
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

ここまで介護保険制度やそれに基づく各種サービス、介護保険外サービスの認知状況をみてきた。次に、実際に家族や親戚等の介護を想定した場合の介護意識・検討状況について分析する。

#### ④介護意識・検討状況

第17表は「家族や親戚の介護について考えたことはあるか」という問いに対する回答で、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた介護意識・検討状況を纏めたものである。男性では「考えたことがある」が43人(33.3%)、「少し考えたことがある」が57人(44.2%)であり、両方で77.5%を占める。他方、女性では「考えたことがある」が102人(55.7%)、「少し考えたことがある」が60人(32.8%)であり、両方で88.5%を占め、男性より女性で考えたことがある者の割合が高い。また30代以下では「考えたことがある」が54人(30.5%)、「少し考えたことがある」が82人(46.3%)であり両方で76.8%を占めるのに対し、40代以上では「考えたことがある」が91人(66.9%)、「少し考えたことがある」が36人(26.5%)であり両方で93.4%を占め、30代以下より40代以上で考えたことがある者の割合は高く、40代以上では大半が考えたことがある。加えて、現居住都道府県が大都市圏では「考えたことがある」が58人(42.6%)、「少し考えたことがある」が52人(38.2%)であり両方で80.9%を占めるのに対し、地方圏では「考えたことがある」が87人(49.2%)、「少し考えたことがある」が66人(37.3%)であり両方で86.4%を占め、大都市圏より地方圏で考えたことがある者の割合は高い。

第17表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた介護意識・検討状況

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
(1) 考えたことがある	43	33.3	102	55.7	54	30.5	91	66.9	58	42.6	87	49.2	145	46.3
(2) 少し考えたことがある	57	44.2	60	32.8	82	46.3	36	26.5	52	38.2	66	37.3	118	37.7
(3) あまり考えたことがない	19	14.7	18	9.8	30	16.9	7	5.1	19	14.0	18	10.2	37	11.8
(4) 全く考えたことがない	10	7.8	3	1.6	11	6.2	2	1.5	7	5.1	6	3.4	13	4.2
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0
(1)と(2)の計	100	77.5	162	88.5	136	76.8	127	93.4	110	80.9	153	86.4	263	84.0
(3)と(4)の計	29	22.5	21	11.5	41	23.2	9	6.6	26	19.1	24	13.6	50	16.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

第18表では、性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた家族に介護が必要となった場合の最初の相談先を示した。男性では「病院」が31人(24.0%)と最も多く「市役所」が29人(22.5%)と続くのに対し、女性では「地域包括支援センター」が54人(29.5%)と最も多く、「病院」が50人(27.3%)と続く。また30代以下では「病院」が55人(31.1%)と最も多く「市役所」が35人(19.8%)と続くのに対し、40代以上では「地域包括支援センター」が52人(38.2%)と最も多く、「市役所」が27人(19.9%)と続く。したがって、男性や30代以下では「病院」が最も多く、女性や40代以上では「地域包括支援センター」が最も多く、これらは第14表での地域包括支援センターの認知状況と整合的である。すなわち、地域包括支援センターの認知度が高い女性や40代以上では病院よりも地域包括支援センターを最初の相談先にする傾向がある。

他方、現居住都道府県が大都市圏では「病院」が37人(27.2%)と最も多く、「地域包括支援センター」が33人(24.3%)と続くのに対し、地方圏では「病院」「地域包括支援センター」が44人(24.9%)と最も多く、「市役所」が35人(19.8%)と続く。

なお、その他ではインターネット、知人のケアマネジャー、家族・親族、介護系の仕事をしている人、兄弟姉妹、自社ケアマネジャー、福祉系職場に勤める妻、社会福祉法人に勤める知人、介護サービス事業所、知人・友人、神戸さん、相談しない等の回答が得られた。

第18表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた家族に介護が必要となった場合の最初の相談先  
(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
市役所	29	22.5	33	18.0	35	19.8	27	19.9	27	19.9	35	19.8	62	19.8
地域包括支援センター	23	17.8	54	29.5	25	14.1	52	38.2	33	24.3	44	24.9	77	24.6
病院	31	24.0	50	27.3	55	31.1	26	19.1	37	27.2	44	24.9	81	25.9
保健所	3	2.3	4	2.2	5	2.8	2	1.5	4	2.9	3	1.7	7	2.2
社会福祉協議会	4	3.1	5	2.7	5	2.8	4	2.9	2	1.5	7	4.0	9	2.9
職場	7	5.4	16	8.7	16	9.0	7	5.1	12	8.8	11	6.2	23	7.3
学校	7	5.4	5	2.7	12	6.8	0	0.0	8	5.9	4	2.3	12	3.8
その他・わからない	25	19.4	16	8.7	24	13.6	18	13.2	13	9.6	29	16.4	42	13.4
計	129	100.0	183	100.0	177	100.0	136	100.0	136	100.0	177	100.0	313	100.0

注：年齢、現居住都道府県別の分析には性別不明の20歳1人を含む。

出所：アンケート調査より作成。

第19表では、現在、家族介護をする立場になったと想定して、その場合に選択する方法を、性別、年齢階級別、現居住都道府県別に示した。全体では「老人ホームなど施設への入居を検討する」が169人(54.0%)と最も多く、次いで「自宅介護を中心に介護保険サービスを積極的に利用する」が136人(43.5%)と続く。

第19表 性別、年齢階級別、現居住都道府県別にみた現在、選択するとした場合の家族介護の方法

(人数：人、割合：%)

	男性		女性		30代以下		40代以上		大都市圏		地方圏		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
老人ホームなど施設への入居を検討する	77	59.7	92	50.3	99	55.9	70	51.5	69	50.7	100	56.5	169	54.0
仕事を辞めて自分が介護をする	1	0.8	6	3.3	3	1.7	4	2.9	5	3.7	2	1.1	7	2.2
仕事はやめないが自分が介護をする	28	21.7	55	30.1	44	24.9	40	29.4	31	22.8	53	29.9	84	26.8
自分以外の家族（兄弟姉妹など）に任せる	22	17.1	21	11.5	27	15.3	16	11.8	20	14.7	23	13.0	43	13.7
自宅介護を中心に介護保険サービスを積極的に利用する	44	34.1	92	50.3	61	34.5	75	55.1	60	44.1	76	42.9	136	43.5
自宅介護を中心に介護保険外サービスを積極的に利用する	11	8.5	26	14.2	12	6.8	25	18.4	21	15.4	16	9.0	37	11.8
自分には関係がないと思うので協力しない	2	1.6	2	1.1	2	1.1	2	1.5	2	1.5	2	1.1	4	1.3
わからない	15	11.6	12	6.6	23	13.0	4	2.9	11	8.1	16	9.0	27	8.6
その他	2	1.6	3	1.6	2	1.1	3	2.2	0	0.0	5	2.8	5	1.6

注：「あてはまるものすべて」とする問である。アンケート母数は男性129人、女性183人、30代以下177人、40代以上136人、大都市圏136人、地方圏177人、全体で313人(年齢、現居住都道府県別、全体の分析には性別不明の20歳1人を含む。)である。

出所：アンケート調査より作成。

## ⑤介護に関する意見等

第20表 介護に関する意見等(自由記述)

- ・介護はしたくない(男性・18歳・千葉県)
- ・日本の介護状況は深刻な問題であり、今後ますますさらに重要視すべきものだと把握している。しかし 身近に介護を必要な人が誰もいないので、今まで何も意識していなかった(男性・19歳・鳥取県)。
- ・介護士が足りていない問題があるので、介護士の待遇をよくしていくことで魅力的な職業として昇華していくべきであると考えました(男性・19歳・鳥取県)
- ・将来介護をすることを考えると、精神的にも肉体的にも不安が多いです(女性・19歳・鳥取県)。
- ・私の祖母がバイトのような形で介護に関わっている話を聞き、常に神経を張って仕事しないともし怪我などをしたら責任も取らないといけないなどでかなりハードな仕事という印象を持つようになった。また、かなりの責任を伴うが、非正規の雇用だと賃金も安く、改善が進んでいるとはいえ、まだまだ課題はあるように感じることがありました(男性・20歳・鳥取県)。
- ・自分は介護に関する知識が少ないと思います(男性・20歳・鳥取県)
- ・介護とはなんぞやを中、高の間に教育して欲しい(男性・21歳・神奈川県)
- ・頑張ってください！！(男性・21歳・神奈川県)
- ・介護される方が自立するのはもちろんのこと、家族の精神的ケアに重きを置かないと、本来の介護というのは存在できないように思います。また介護職の方のケア、優遇改善に世論が重きを置いてくれたらとも思っています(男性・22歳・沖縄県)。
- ・あと20年くらいしたら親もいい歳になり、介護が必要になってくると思うが、正直介護をしたくない。デンマークの様な福祉制度になったらいいのって思う(女性・22歳・鳥取県)。
- ・特にありません(男性・25歳・岡山県)
- ・自分が親を介護する立場になったとき、どこに相談したらいいのか分からず不安です。遠方に嫁いで両親の近くにいてあげられないとき、私には何が出来るのでしょうか。施設に入れる事しか選択肢はないのかと悩んでいます(女性・27歳・岡山県)。
- ・介護が必要であれば行政のサービスで全て面倒をみてほしい。私のように血縁と疎遠でも安心できるし、介護する側で人生が変わる人も減るだろう(女性・29歳・兵庫県)。
- ・自分はまだ20代で親も現役で働いているので正直介護の実感は湧きません。ただ、自分が小学生の時に同居する祖父母の介護に苦勞する親の姿を見たので、無理してまで実の娘である自分が自分の親を介護するよりも、さまざまなサービスをうまく使って、誰かひとりに負担がいかないようにしたいと思っていますし、親も無理させてまで子どもに頼りたくないのではないかと思います(女性・29歳・鳥取県)。
- ・「介護」が身近にない方にとっては、やはりどこか他人事で関心がないのが正直な意見だと思います。でもこのコロナ禍で「自身も家族もいつ何が起こるかわからない」と、若い世代にも危機感が持てたのではないかと感じました。もっと介護について気軽に学べる環境を拓け、誰もが適切な対応ができるようにすることが大切だと思います(女性・31歳・鳥取県)。
- ・配偶者がヤングケアラーの環境で育ち、実親(自分からすると義母)との関係性に悩んで精神的に不安定になっています。自分自身、義母に介護が必要になった場合、どのように向き合えばいいか悩んでいる状況です。高齢者介護だけでなく、精神的な問題を抱えた若者へのケアサービスも充実すると良いと思います(女性・32歳・鳥取県)。
- ・このアンケートの介護の内容も高齢者介護の内容が多かったのですが、障がいの内容もあればと思いました。あと福祉番組などでヘルパー利用の話はありますが、ヘルパーが少しくれば何とかかなるというイメージが強すぎて周囲

- に上手く話せないことがあります。そういうこともまだ介護に関わっていない方にも知ってほしいです(女性・32歳・福岡県)。
- ・万が一、父が歩けなくなった場合に現在の一軒家の3階、EV無の家でどうやって生きていけるのか、家にも帰れなくなる現状が不安です(女性・32歳・東京都)。
  - ・介護することになれば、仕事が従来のようにできなくなると思う。経済的な不安が大きい。義務だとは思いますが、負担だとも認識してしまう(男性・33歳・東京都)。
  - ・介護度が進んだ場合は老人ホームに入居してもらおうのが一番いいと思っているが、金銭的な問題もあるので悩ましいところだと思う。とりあえずは、介護は重度になる前に少し軽いうちから少しずつ対応を進めていくことがお互い(介護者、被介護者)にベストだと思っている(女性・37歳・鳥取県)。
  - ・実際にその時になってみないと、どの方法が正しいのかはわからない気がします。自分だけでなく、介護される側の気持ちなどもあると思うので(女性・37歳・島根県)。
  - ・介護士のイメージが良くなるように願っています(女性・40歳・鳥取県)。
  - ・介護の仕事をしている人が、医者の言いなりではなく、食べ物などの知識を身につけてほしい。お世話をする感覚ではなく、自立支援を意識してほしい(女性・41歳・大阪府)。
  - ・不安しかない(女性・41歳・岡山県)。
  - ・今はまだ、身近なところで介護が必要な人がいない(親も元気でいてくれて、友人も元気なので)状況なので、正直なところあまりピンと来ていないのが実情です。ただ、病気や事故、加齢などによって介護がいつ必要になるかは分からないため、いざという時にはどこの誰に相談すれば良いのか、事前にシミュレーションしておく必要があると感じました(男性・42歳・愛知県)。
  - ・介護保険で出来ること、現在の保険や法律等では支援出来ないこともあります。そこや間を取り持つ支援に取り組んでいきたいと考えています(女性・42歳・岡山県)。
  - ・認知症です。片道30分程度ですが夫婦共に仕事をしており、細かなサポートが難しい。ケアマネさんはついていますが介護保険でサポートしきれない日常の不具合をどう保全していくかが悩ましい。重要なものの紛失、約束の忘れなど、冷蔵庫の管理など、頻繁に行けないので電話で遠隔支援しても拗れる。悩ましいです(女性・43歳・神奈川県)。
  - ・母の介護というかトイレに連れていったりしてますがしんどい。父にも叱られる。もう介護離れたい自立したい(男性・43歳・岡山県)。
  - ・家族のみで介護をしない(女性・43歳・岡山県)。
  - ・情報や手続きがわかりにくい印象がある(女性・43歳・東京都)。
  - ・今まで、当事者意識なく過ごしてきましたが、70歳になる母を考えると改めて、きちんと考えないと行けない問題だと気づきました。ただ、あまりにも知識がなく、当事者になった際に思いっきり悩むと思います。日頃から、情報感度をあげておくようにします(女性・43歳・東京都)。
  - ・旦那の親を看取りましたが、遠方で短期間のみ休みをとり行きました。このコロナ禍で手配などするのが大変でした。今、遠方で一人となった義母や近くではあるが一人で住む私の母のダブルで介護になった場合など考えるとつらいです(女性・44歳・愛知県)。
  - ・死なない限り関わらない(男性・44歳・千葉県)。
  - ・介護を必要とする本人は、自由にやりたい事ができず、辛いのだと思います。できるだけたくさんの人の手を借りて、本人のやりたい事に向き合いたいです(女性・44歳・東京都)。

- ・情報がほしい人、情報を提供したい人が交わっていない印象があります。必要な人に届くような工夫やお手伝いがしたいです(女性・44歳・東京都)。
- ・若いうちから知っておくことが重要だと本当に思います(女性・45歳・山口県)。
- ・突然やってきたらどうしようと言う漠然とした不安はある(女性・45歳・愛知県)
- ・姉弟とも育児中なので、介護する時期と重なると姉弟間の協力体制が難しくなると思います。また、地域によって保険外サービスの量も質も異なります。田舎ならではのサービスもあるので、行政や包括に相談しサービスを上手く利用していきたいです(女性・46歳・鳥取県)。
- ・介護保険制度の公費の大きさが半端ないので、日本の未来が心配(女性・47歳・鳥取県)
- ・生きていれば必ず順番に訪れる問題だと思っています。事前に備えれるとしたら知識が欲しいかなと思います(女性・47歳・岡山県)。
- ・綺麗事だけでは何も解決しない。施設入居者が施設職員から虐待を受けた等の報道もあるが、職員の立場や苦悩への理解が足りてないと感じる。また、100%自己資金で賄える家庭など稀なので、現在より充実を望むなら増税を受け入れる必要がある。介護、看護にどれだけの公費が充当されているか積極的に公表すべき(男性・47歳・岡山県)。
- ・地域包括センターと病院の情報共有が、もう少し深く行われるといいと思います(女性・50歳・京都府)
- ・介護が必要になった時に何をしてもらえるのかが全くわからずケアマネージャーの説明も一貫していなかった為とても困りました。どのケアマネージャーが担当するかで雲泥の差があり、区によって受けられないサービスがあるのも疑問でした。わかりやすく安心して任せられる介護サービスがあると家族は心強いと思います(女性・50歳・東京都)。
- ・介護保険や自費サービス、地域のリソースを活用して在宅で介護できるように整えたいし、自分も在宅で過ごしたい。医療者が医療的処置を進め在宅でのできる事できない事、在宅での家族の負担や終末期の姿、経過とかそういったことをイメージできるように説明してくれる人が増えるといいです。訪問看護師は訪問に来てくれるが時間内でやることやって肝心なことまでは話を聞いたり、情報提供するとか精神的フォローが感じられない。身体の管理だけな感じを沢山見てきた。医師も確信になるところまでをいうタイミングが遅い。在宅で過ごしている終末期のひとを体調不良になったら病院に行かせないでほしい。お看取りができる準備を家族と共に準備してほしい(女性・51歳・東京都)。
- ・施設に入れたくても親の年金ではカバーしきれないため、自宅介護になってしまう(女性・51歳・千葉県)
- ・一般の方にとって「介護」の言葉の意味(定義)が、そもそもあいまいな気がしています。かくいう私自身もあいまいです(男性・51歳・鳥取県)。
- ・認知症の介護は、思った以上に物理的な問題が深刻です。知見を貯めて、誰かの助けになれば良いなと思います(女性・52歳・東京都)。
- ・市役所は相談するには敷居が高い。情報を得る場が少ない(女性・53歳・鳥取県)。
- ・誰もが抱えなければならなくなる介護問題。できれば家族で看取りたいと思ってますが、第三者にも介入してもらわなければ到底出来ない事だと思うのでサービスの充実を望みます(54歳・女性・兵庫県)。
- ・離れて暮らす父親の具合がよくないが、病院以外どこに相談すれば良いのかわからない(54歳・女性・東京都)。
- ・介護はなるべく誰か一人が背負うのではなく、家族の他にも、公的サービスをうまく利用していかなければ続かないと思う。育児と違ってあと4年で楽になるとか、学校上がれば……など予測がつかないので、無理をしないことが肝心。そしてできるだけ親自身のお金で何とかできるようにすることが大事だと思う(女性・55歳・東京都)。
- ・要介護者が身近な存在であればある程、抱え込まないで、訪問介護サービスなどの社会資源を利用した方良い。

(お互い我儘が言えてしまうから)(男性・56歳・東京都)

- ・仕事を辞めて親の介護や配偶者等の介護をする方については、家庭介護に対して賃金支給できる様な対応ができる様になればと思う(女性・57歳・熊本県)。
- ・奥が深いと思います。人それぞれ考え方が違うので個別性がある(58歳・女性・広島県)。
- ・制度が複雑でわかりにくい。退院した後の生活が想像しにくい。痴呆がなければ介護保険が使えないのは困る。加齢による身体能力の低下を補うような支援は公的にしてほしい。もっと積極的に老人がいる家庭を支援してほしい。年寄りの居場所をつくって欲しい(女性・59歳・鳥取県)。
- ・身近なこととしてしっかり考えていきたいです(女性・60歳・大分県)。
- ・介護を受けないように、自分自身の健康管理することが最大の課題です(男性・60歳・鳥取県)。
- ・介護制度そのものの理解ができていないことがよくわかった(男性・60歳・鳥取県)
- ・仕事をしると働かせておいて仕事を辞めてまで生活の面倒全てみると、介護が必要になった本人(姑)も夫も言うのでしてあげたいと思えない。これまでも何度も振り回されてきたため気持ちが収まらないでいる(女性・61歳・島根県)。
- ・一生現役であり続けたい！健康寿命として人生を全うするためには、予防は必須だと思うし、人脈は宝だと思う。(同時に、延命のための管に繋がれた人生の選択は極力ない方がいいのではないかと思う。) 介護される側もする側も辛い人生で終わらない。生きてきてよかった、関わられてよかったと思える関係性を維持できる環境が必要。現実には厳しいが、人・金にゆとりがあるに越したことはない。ものは工夫や知恵をもっと使い、在るもので生み出す努力も必要だと思う。団塊世代の人たちの中では、高齢者のシェアハウスが話題になっている。(ケアハウスではなく)自由であり、されど何かあった時のための助け合える生活環境が求められている(女性・62歳・岡山県)。
- ・介護保険外サービスはまだまだ知られていないことが多いと思うので、一般的に知られるようになれば介護者も要介護者も楽になるはず(男性・62歳・福井県)
- ・同居していると負担が大きい気がする。手続きや申請の為仕事が思う様に出来ないのが苦痛(女性・62歳・鳥取県)。
- ・義父母は高齢だが、今はまだ自分の事は自分でしている。他人に介護して貰う事に対して頑なに拒否の思いがある。冷たい人間と思われたくないので良いカッコして、わたしは介護するんだろうとは思いますが、自宅での介護には限界がある。楽な介護はないが、色々なサービスが受け、少しでも介護する方の負担を軽減出来る様にしていきたい。若いから病気にはならない、認知にはならないは自分の勝手な見解であり、そうってからでは遅いという事を私自身含め、義父母にも理解して貰いたい(女性・62歳・鳥取県)
- ・ケアマネジャーの存在がありがたい(女性・62歳・鳥取県)

注：1. 原文ママである。

2. ( )内は性別・年齢・現居住都道府県を表す。

出所：アンケート調査より作成。

### 3. 総括

本稿では、次世代を担う若者を対象として身近な介護経験や介護保険制度・各種サービスの認知状況、介護意識・検討状況等の解明を目的に実施したアンケート調査の結果を報告した。その結果、明らかにされた点は以下の点である。

第1に回答者は男性では30代以下が、女性では40代以上が多く、それを反映して男性では学生が約6割、女性では社会人が約6割となった。また、男女ともに現居住都道府県が地方圏の人の割合は5割台であった。

第2に身近な介護経験は男性より女性で、30代以下より40代以上で、現居住都道府県が大都市圏より地方圏で多い傾向がみられた。また現在の介護状況として、男性より女性で、30代以下より40代以上で現在、介護をしている人の割合は高いが、現居住都道府県別にみるといずれも35%前後であり差はなかった。加えて、現在、介護をしている人が介護をする上で困っている点として「精神的な疲労」「肉体的・身体的な疲労」「就業との両立困難」が多かった。他方で、現在、介護をしている人の約8割に相談相手がいた。

第3に介護保険制度について、男性より女性で、30代以下より40代以上で認知度が高いが、現居住都道府県による差はみられなかった。個別のサービスについて、老人ホーム、デイサービス、訪問介護はいずれも8~9割の人が「知っている」「少し知っている・聞いたことがある」と回答しており、認知度は高い。他方で、ショートステイや地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護保険外サービスの認知度は老人ホーム、デイサービス、訪問介護と比べると全般的に低く、性別、年齢階級、現居住都道府県別に差がみられた。また介護保険外サービスの認知度は介護保険制度の認知度と比べて、性別、年齢階級、現居住都道府県を問わず低かった。

第4に家族や親戚の介護について考えたことがあるかという問いに対して、男性より女性で、30代以下より40代以上で、現居住都道府県が大都市圏より地方圏で考えたことがある人の割合が高かった。また家族に介護が必要となった場合の最初の相談先として、男性や30代以下では病院が最も多く、女性や40代以上では地域包括支援センターが最も多かった。加えて、現在、家族介護をする立場になったと想定した場合に選択する方法は「老人ホームなど施設への入居を検討する」「自宅介護を中心に介護保険サービスを積極的に利用する」が多かった。

このように、男性よりも女性で、30代以下より40代以上で家族や親戚の介護について考え身近な介護経験を有する傾向が強まるが、老人ホーム、デイサービス、訪問介護は大半の人が知っていることから、介護保険制度内の一部のサービスについては周知がかなり進んでいると考えられる。他方で、ショートステイや地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護保険外サービスの認知度は上記と比べて低く、これらのサービスや職種等は実際の介護経験を有する等、深く介護にかかわらない限り、知る機会が少ないと推測される。

また第20表を見ると、回答者は「介護をしたくない」といった介護に対する嫌悪感や、「精神的にも肉体的にも不安が多い」「経済的な不安が大きい」「どこに相談したら良いのか分からず不安」「突然やってきたらどうしようという漠然とした不安がある」等、各種要因に基づく不安や漠然とした不安等を感じていることがわかる。他方で、「自分は介護に関する知識が少ないと思う」「介護とはなんぞやを中、高の間に教育してほしい」「若いうちから知っておくことが重要だと思う」「事前に備えられるとしたら知識が欲しい」等、若いうちから積極的に介護知識や情報を知りたいと考えている人も一定数存在している。ただ、「市役所は相談するには敷居が高い。情報を得る場が少ない」「病院以外のどこに相談すればよいかわからない」「制度が複雑でわかりにくい。」「介護保険外サービスはまだまだ知られていないことが多いと思う」等、回答者は介護知識や情報を得るための機会・手段が限られていることやそれ自体に関する知識・情報不足を感じている。したがって、まずは介護知識や情報を得るための具体的な機会や手段の周知徹底を進めそれを通じた不安の解消をはかるとともに、若いうちから必要に応じてそのような機会や手段に多くの人アクセスできる仕組みづくりが求められていると考える。